

廃材から再生薪「薪太郎」を生産〔京都府・京丹後市〕

情報収集官署名：近畿農政局 京丹後統計・情報センター  
☎ 0772-62-0662

〔取組主体〕	
名 称	工務店グループEPM（エコ・プロジェクト・メイツ）
取組の範囲	京丹後市
開始年度	平成14年度
〔補助事業〕	無

## 1 取組目的と概要

### （目的）

木質廃材を有効利用するため、薪を生産するリサイクルプラントを導入し、資源循環型社会の構築を目指す。

### （概要）

京丹後市内の16の工務店で組織する工務店グループEPMでは、建設リサイクル法の施行を機に、請け負った木造家屋の解体で排出される木質廃材を有効利用するためのリサイクルプラント（イタリア製）を導入し、資源循環型社会の構築に向けて再生薪の生産・販売を平成14年9月から行っている。

同プラントは、市内の廃業となった畜舎を改造して設置されており、木質廃材を細かくする「破砕機」（シュレッダー）、細かくしたチップに高圧をかけて薪状に固めていく「薪製造機」（プリケッター）から構成され、木質廃材をほぼ100%リサイクルすることができる。同設備の総額は、3,500万円で1日に約4tの木質廃材の処理が行える。

同グループでは、メンバー各々が廃材を同プラントに搬入し、年間約200tの木質廃材を再生薪に加工し、「薪太郎」の商品名で地元をはじめ関東地方の薪ストーブ愛好家に、一箱13kg入り350円で販売しており、廃材を暖房用熱源として再利用している。

## 2 取組の効果

### （効果）

これまで焼却処分していた約200tの木質廃材のすべてを同商品に加工・販売することにより、化石燃料の利用を削減し、環境への負荷の軽減が図り、資源循環型社会の構築に貢献できた。

## 3 現在の課題と今後の展開方向

### （課題）

同市では、同取組での処理量以上の木質廃材が発生しているため、原料廃材の搬入コストや同商品の運搬コストなどにより、地域ごとにプラントを設置することが必要となる。

### （展開方向）

全国の暖房用熱源の2割を賄える量（同グループ試算）の木質廃材が見込まれる中、全国では年間約6,000台の薪ストーブが販売されており、薪の需要は伸びるものと思われる。このため、インターネットを利用した情報発信により、同地域から全国に同プラントの設置を呼びかけ、木質廃材の有効利用を促進し、環境への負担を軽減していきたい。

「廃材から再生薪「薪太郎」を生産」の施設概要

施設名称	木質バイオマスプラント	設置主体	工務店グループ E P M
運営主体	工務店グループ E P M	施設整備費	35,000 千円
主な設備	破砕機（シュレッダー） 高圧まき製造機（ブリケッター）	稼働状況	1日稼働時間 8 時間 年間稼働日数 50 日

【施設のシステムフロー】

解体現場

業者が搬送

投入ホッパー

破砕機本体

ベルトコンベア

磁石ブーリー

一次ホッパー

吸引搬送パイプ

再破砕機

サイクロン

サイロ

ブリケッター

冷却ライン

自動ブリケット切断機



牛舎を改造したプラント



ブリケッター本体



薪ストーブ

宅配

薪太郎保管

30cm くらいに切って製品化

バイオマスの回収と再利用の流れ

バイオマス名	発 生 源	距離	発 生 量	収集・運搬方法	施設処理能力
木質廃材	木造家屋解体現場	km	不定期	自ら車で搬入	4 t/日
再生バイオマス名	生 産 量	再生バイオマスの利活用先			
再生薪	200t/年間	薪ストーブ利用者			